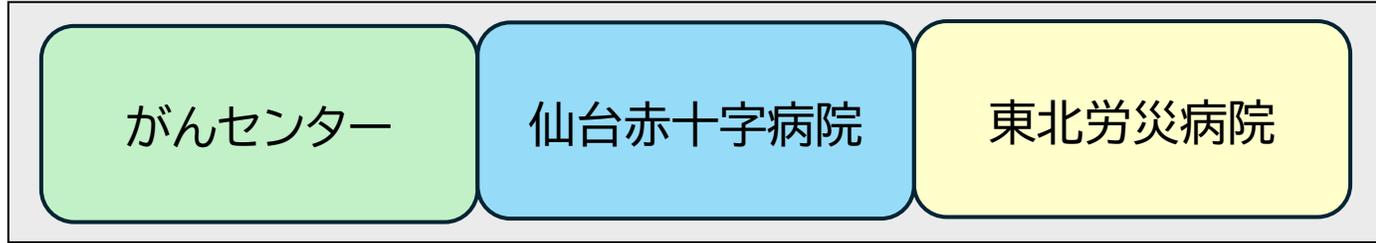


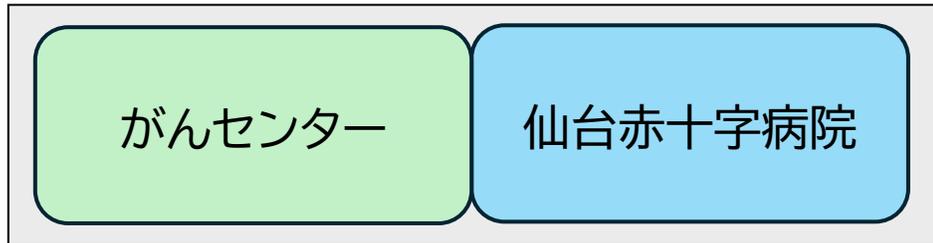
# 地域医療構想：3病院から4病院に

がんセンターのあり方検討会議  
+  
地域医療構想



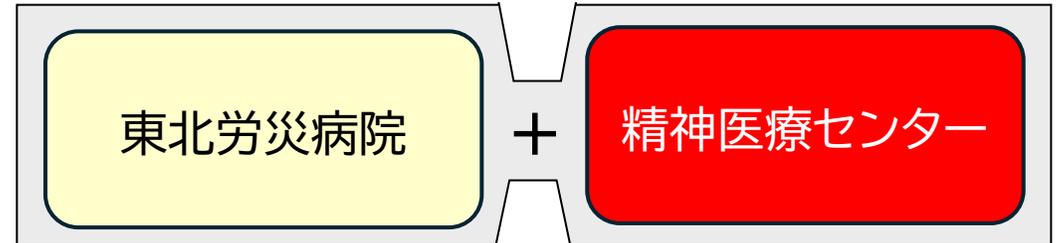
- 富谷市と名取市が誘致を表明（土地の無償提供という“ありがたい申し出”があった）

【名取市】



【合併】 がんセンターは仙台赤十字病院に統合し、土地の無償提供を受ける。重点支援区域にも選定される。

【富谷市】



【合築】 精神医療センターは法律上県立を外せないので統合できない。→ 県に対する寄付行為に当たるので、県立精神医療センターは土地の無償提供を受けられない。

4病院再編というが、南2は合併、北2は合築という根本的に異なる構想  
精神科病院を入れたところに最初から無理があったのではないか？

# 地域医療構想の重点支援区域

そもそも、地域医療構想に精神病床は含まれていない。**精神科病院は対象外。**

がんセンターと仙台赤十字病院の再編統合により地域医療構想の重点支援区域に選定された。

→ では、**東北労災病院はどうなるのか？**

精神保健福祉審議会での県の答弁(令和6年2月15日)

「重点支援区域の選定に関して、精神医療センターの話は**必要要件にはなっていない。**」

「しかし、必要要件ではないものの、国が選定するに当たって検討材料にされるのではないかと考えている。」

「仙台構想区域のエリア内なので東北労災病院は追加の申請と考えているが、**北と南は全く別枠の整理の中での申請であったり、選定だったりということになるようだ。**」と答弁。

→ 東北労災病院単独では国から選定してもらえないという考え。つまり、何としても精神医療センターと合築させなければならないというのが県の立場。【**病院再編ありきと批判される部分**】

→ 県は再編統合を最優先。我々は専門家として、この計画がもたらす全県の精神医療保健福祉の問題点を指摘。→ **発想の原点が違う**から議論が噛み合わない。

県議会での県の答弁(令和6年2月20日)

東北労災病院と精神医療センターの整備については、基本合意ができてから5年以上はかかる。

→ 果たして地域医療構想に間に合うのか？

# 精神医療センター建替案の歴史

## 以前の計画

精神科救急等の政策医療の拡大や児童・思春期等のモデル的医療への対応強化  
病床数：220床（全室個室化）

内訳：スーパー救急病床96床、総合治療病床94床、児童思春期病床30床  
移転候補地：がんセンター西側山林（約6万㎡）

（平成28年9月に断念）

## 今回の計画

精神科救急と身体合併症に対応し、病床数はサテライト分院を含めても170床を予定

果たして全室個室化が必要か？

面積は6万㎡も必要か？（富谷の土地は東北労災病院と合わせて6万㎡）

170床なら現在地向かいの応急仮設住宅跡地でも面積は十分。土地の購入も不要で完成も早い。  
訪問看護ステーションやデイケアセンターを現在地に残すことも可能。

身体合併症については、東北労災病院に精神科病床を作って対応すればよい。（精神医療センター減床分の一部を東北労災病院に提供して、「再編統合」の1つの形にすればよい。）